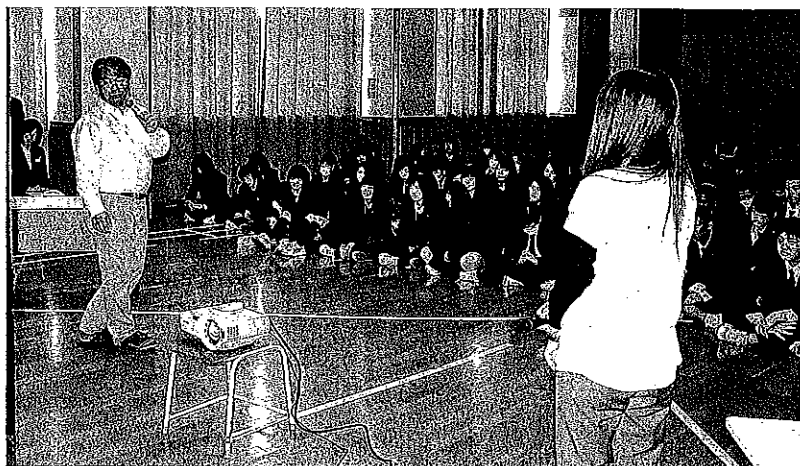


保健師らが講話 市の「未来プロジェクト」

命の授業 高校生にも

新年度から 対象を拡大 出産、子育て伝える



旭川龍谷高で開かれたモデル事業。生徒に妊娠や中絶、子育てなどについて説明した

旭川市は新年度、小中学生に保健師らが命の大切さを伝える「私の未来プロジェクト事業」の対象を高校生に広げて本格的に行う。社会に出た後、家庭を持つ高校生たちに妊娠の仕組みや出産後の生活などのほか、虐待や中絶についても紹介する。市子育て相談課は「出産、子育ての楽しさも伝えたい」と説明している。

(金谷育生)

事業は2012年度に開始。市の合計特殊出生率(女性1人が生涯に生む子供の平均数)が全国平均を割り込む一方で、未成年の中絶率が全国平均の2倍以上の水準に達していることに對し、市が危機感を抱いたことがきっかけだった。

市の保健師や大学生が小中学校を訪れ、小学生には命の誕生や胎児の成長を説明、中学生には実際に乳幼児と触れ合わせ、乳幼児の母親の話を聞くなどしてきた。15年度は、市内の大学生らでつくる一般社団法人「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」に事業を委託し、市と共同で年度

内に小学校16校、中学校8校で実施。モデル事業として高校2校でも行った。11日の旭川龍谷高での事業では、中絶は妊娠21週を超えるとできないことなどを紹介。保健師は「妊娠したら子どもを育てることができなのか、しっかり考えてほしい。困ったら周囲の信頼できる大人や保健師に相談してほしい」と呼びか

けた。子育てをイメージできずに出産、その後、育児に疲れ、虐待してしまう例もあること、生後間もない赤ちゃんは1日に何度も泣くことなどを説明。同校の男性教員が自身の子育てについても話した。

市は新年度、市内の14高校に参加を呼び掛け、小中学校と合わせて30校程度で事業を行いたい考え。